

令和元年度(第17回)京都環境賞受賞者の活動内容

1 京都環境賞(大賞)

京都市立安朱小学校	安朱の地域と自然を見つめ、自然との共生や環境保全への思いを育んで行動につなげてもらうことを目的に、専門家等と連携した「ESD」や「SDGs」の視点を盛り込んだ環境教育を実施するとともに、マレーシアの小学校との環境に係る相互交流、6月の環境月間におけるホテルの保全を目指した清掃活動、地域と連携した植栽活動等に取り組んでいる。
------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2 特別賞

市民活動賞	
比叡の里 ハッピーライフ研究室	左京区八瀬地区において、身近な自然の豊かさや魅力に関心を持ってもらうため、地域住民が主体となり、小水力発電を活用したイベントを開催するなど、再生可能エネルギーを中心としたライフスタイルを提案する活動に取り組んでいる。
企業活動賞	
ホテル日航プリンセス京都	地域社会の一員としてリデュース(発生抑制)をはじめとした3R活動等を推進するため、最新鋭の生ごみ処理機の導入や廃棄物の分別・計量・記録の徹底、食材の地産池消、地域の清掃活動への積極的な参画等に取り組んでいる。
環境教育賞	
京都府立北稜高等学校	「KESステップ1」を基盤に、学校周辺の豊かな自然環境を活用しながら、近隣にある研究施設・小学校・地域住民との「地域に根ざした環境教育」を実践するため、総合地球環境学研究所との連携授業や地域の小学校との交流、希少植物の栽培、近隣河川での生物調査などに取り組んでいる。
KES推進賞	
高木金属株式会社	環境負荷が大きいと思われる「めっき業」において、企業の社会的責任活動や環境に対するイメージアップ等のため、「KESステップ2SR」に登録し、経営者と社員が一体となって、資源・エネルギー使用量の削減や環境負荷の少ない設備への改修など環境改善活動等に取り組んでいる。
環境未来賞	
細矢憲(京都府立大学), 玉岡明彦(大平印刷株式会社)	和紙原料の廃棄物利用として、「コウゾ」と「ミツマタ」の炭に着目し、共通の炭焼き方法を確立し、その炭が持つ消臭機能等を明らかにするとともに、印刷しても消臭機能等を失わない「墨(炭)インク」を開発した。また、友禅染を応用した友禅印刷等に墨インクを利用して名刺等の作成に取り組んでいる。
エコ学区賞	
豊園エコ推進委員会	小学生や若い世代の環境への意識を高め、それをきっかけに上の世代にも波及させることで地域力アップを目指し、「衣食住」をテーマに、専門講師等によるエコに係る講義と古着のリメイクやエコクッキング等のワークショップを組み合わせたイベントの開催、防災訓練でのエコブースの出展等に取り組んでいる。

3 奨励賞

<p style="text-align: center;">ストレンジョイ S + Renjoy</p>	<p>ストリートパフォーマー達が、京都のまちを使わせてもらっている「恩返し」として四条河原町周辺で「銅像」など目立つパフォーマンス姿でごみ拾いを行うことで、まちの美化に努めるだけでなく、ごみ拾いが持つ「負」のイメージの払拭や清掃活動を目撃した人に対する「ポイ捨ての抑止力」となる啓発活動に取り組んでいる。</p>
<p style="text-align: center;">(一社)日本繊維機械学会・ 繊維リサイクル技術研究会</p>	<p>大量に発生している衣類ごみの減量を目指すとともに「つくる責任・つかう責任」について考えてもらう機会とするため、中学・高校にて廃棄学校制服のアップサイクル(=不必要なものから、元の製品よりも次元・価値の高いものを生み出すこと)品のアイデアを募集して製品化する環境教育に取り組んでいる。</p>
<p style="text-align: center;">京都市生活環境事業協同組合</p>	<p>家庭ごみ収集運搬業務の日々の様子などを知ってもらうことで、ごみ減量やごみ出しマナーの向上等を図るため、新人ごみ収集員が収集現場で日々感じた内容やごみに係る小ネタ等を綴っていたブログに挿絵等を追加して冊子化し、市内各所に配布して普及啓発に努めている。</p>
<p style="text-align: center;">京都経済短期大学 プロジェクト演習</p>	<p>「ごみを生み出さない暮らし」を実践的に学んでもらうことを目的に、短大生による地域の夏祭りでのリユース食器導入の提案とその実現化、そこでの知見を踏まえ、学園祭における全店舗でのリユース食器導入に取り組んでいる。</p>

4 エコ学区奨励賞

<p style="text-align: center;">市原野自治連合会</p>	<p>水に恵まれた地域性を活かし、夜間の安全対策のために地域住民と子ども達で水車を用いた小水力発電を作成・設置して大神宮社の灯籠に活用するとともに、災害時にも活用できる創エネの実現を目指し、調査・検討に取り組んでいる。</p>
<p style="text-align: center;">銅駝高瀬川保勝会, 銅駝自治連合会</p>	<p>高瀬川でホタルを自生させて学区のシンボルに定着させるとともに、継続したエコ活動を地域に根付かせるため、保勝会や小学校等がそれぞれ相互協力しながら、学区でのホタルの自生に向けた活動や鑑賞会等に取り組んでいる。</p>